



# ART

Taito-ku  
Art Project  
Archive  
2008→2017

平成24年度

## 企画

- 台東スタディーズ
- 劇団 DOGADOGA + (plus) 第12回 偽作・不思議の国でアリス2012
- みっけるフェス in 台東区2012
- 吉原芸術大サービス 線の上で踊る

## 短評

台東区内で芸術や文化に関わる活動を行うユニークな人物を発掘し、可視化していくことを目的とした『台東スタディーズ』や、街中の様々な場所を会場に美術や音楽を披露する『吉原芸術大サービス』という、のちに定番企画となる2作品が採択された24年度。支援制度5年目ということで街との連携や信頼性が向上し、活動するアーティストだけでなく地域全体を巻き込んだイベントを行うことができました。

# 12

- ART
- DANCE
- MUSIC
- DRAMA
- OTHER



者も交えての自己紹介を行い、お互いの活動を知る交流会も実施。「台東スタディーズ2(ファイナル-台東区のこれからを面白くする人たちが集うワンデー・パーティー)」では、プレスト編で集まった情報をもとに、集大成となるイベントとして、8組のゲストを招き、トーク・ライブ・参加者同士の交流会を開催しました。

「全員参加型」のトークイベントを「東京キネマ倶楽部」で開催。会場には、5席ずつのテーブルが用意され、テーブルごとに自己紹介やテーマに応じたディスカッションを行うほか、ゲストに「台東区デザイナービレッジ」村長の鈴木氏や「貸はらっぱ音地」代表の牧住氏を招き、それぞれの活動についても紹介しました。

2013年度は、「台東スタディーズ2(プレスト編)」として前年度に続き、ブレインストーミングイベントを開催。区内で活動する人物の情報をゲストに順番に発表してもらい、トークショーのようなスタイルです。プレスト終了後には、参加



山谷堀公園でのインタビュー風景



平成24年度チラシ



平成25年度チラシ

Title  
台東スタディーズ

主催者  
まちづくり会社ドラマチック  
代表 今村ひろゆき

開催期間【平成24年度】  
2012.08.21—2013.01.27

会場【平成24年度】  
LwP asakusa、東京キネマ倶楽部、浅草文化観光センター

開催期間【平成25年度】  
2013.08.21—11.30

会場【平成25年度】  
シェアアトリエ reboot



浅草文化観光センター

## 東東京・台東区で芸術・文化に関わるユニークな活動と人材を発掘し、見える化するプロジェクト

『台東スタディーズ』とは、東東京・台東区で芸術・文化に関わるユニークな活動と人材を発掘し、見える化するプロジェクト。上野、浅草をはじめとした台東区は観光地や下町として知られていますが、実はそれだけではありません。台東区には新進気鋭のモノづくり、デザイナー、アーティスト、市民活動、お店などドキドキするようなアイデアを持つ人たちや、ユニークな活動が行われています。目指したのは展示・トークイベント等の一連の活動を通し、台東区の芸術文化に関わる人材の見える化と交流を推進し、協働や新たに芸術文化活動を行う人たちの活動の後押しです。

【開催状況】  
2012年度には「台東スタディーズ(プレスト編)」として、まずは台東区内でユニークな芸術・文化に関わる人物に

ついて、自由に意見を出し合い、活動する人物の情報を共有することを目指したブレインストーミングイベントを開催。「台東スタディーズ(インタビュー編)」では、プレスト編において名前の挙がった人物の活動場所に出向き、取材をする公開インタビューを実施。「台東スタディーズ-台東区で活躍する55組展(展示編)」では、これまでの活動で集まった情報をまとめたパネル展を浅草文化観光センターで開催。台東区で活躍する様々なジャンルのアーティストやクリエイター 55組の活動と、それぞれが考える「台東区の魅力」を紹介するほか、観覧した人がおすすめの場所や人を紹介できるマップと付箋を用意。「台東スタディーズ-台東区で活躍する55組展(トークイベント編)」は、55組の情報を一気に知ることができ、参加者同士が「つながる」場をつくる

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



のもこの公演の見どころのひとつです。物語のフィナーレでは、2階建ての立体的な舞台装置を活用した迫力あるダンスシーンが繰り広げられました。笑いあり、シリアスあり、歌あり、ダンスありの約30名の出演者によるにぎやかな舞台は、盛況のうちに終了しました。



公演の様子



公演の様子

#### 企画者からのコメント

支援制度を受けたことにより、公演宣伝活動がスムーズになり、チラシ配りやポスター貼りなど協力的に行っていただけました。助成金のおかげでスケールアップした演出を実現することができ、お客様に喜んでいただけた。また支援制度の公演をきっかけに、新規のお客様が後の公演にも参加していただくなどのつながりも出来ました。現在も、浅草を拠点として公演を続けています。



チラシ



メンバー

Title

第12回公演  
偽作・不思議の国で  
アリス2012

主催者  
劇団ドガドガプラス

開催期間  
2012.08.23—27

会場  
東京キネマ倶楽部

## 望月流おとぎ話が、歌とダンスで炸裂！

「目指せ、浅草公会堂」を合言葉に浅草に本拠地を置き活動する劇団ドガドガプラス。劇団ドガドガプラスは、歌って踊れる浅草の劇団として、2006年に旗揚げをして「踊り子女優化計画」を実行しています。ネットイブで踊って、笑って泣いて汗を流して、先人たちがつくった浅草レビューの世界観を踏み台に、演劇界に新風を巻き起こすことを目指して浅草を拠点に活動しています。その作・演出を手がける望月六郎が、おとぎ話「不思議の国のアリス」をベースに自身のカラーを全面に打ち出したのが『偽作・不思議の国でアリス2012』です。第12回公演『偽作・不思議の国でアリス2012』は、2010年にドガドガプラスの第8回公演として発表した公演を練り直し再構築した作品です。また、第3回「したまち演劇祭in台東」の参加作品

の一つとして選ばれたこともあり、通常の単体公演では行えない新たな試みも加わりバージョンアップした公演となっています。

#### 【開催状況】

これまで浅草を拠点に公演を続けてきましたが、本公演の会場は、大正浪漫のオペラハウスを再現した元グラウンド・キャバレー「東京キネマ倶楽部」。吹き抜け3階建ての空間を持つラグジュアリーな東京キネマ倶楽部ならではの独特な雰囲気は、来場者のみならず出演者にも大変好評でした。また、吹き抜け空間という高さを活かした立体的な舞台装置の採用や客席中央に花道を設けるなど、空間を活かした舞台美術・照明効果・演出が実現したことによって、普段の公演とは異なるダイナミックに駆け回る

役者・ダンサーの動きを披露することが出来ました。

『偽作・不思議の国でアリス2012』は、台東区のバス会社に勤めるバスガイド・アリスがバスに轢かれ、お伽の国へ落ちる臨死体験を描いたストーリーです。お伽の国には、かつて毒りんごで眠りについた姫が王妃となり君臨し、キスで姫を目覚めさせたかつての王子は壮年の王になり、2人の間にはプリンスオブ王子が誕生していた。森には18年間さまよいつづけアラサーになった白雪姫とシンデレラが住み、村には三銃士やジャンヌ・ダルク、ロビンフッドなど有名なお伽話の主人公たちが次々と登場します。私たちが知る童話のストーリーから18年後の世界を舞台に、登場人物たちが大人の愛に気づいていく現代版シェイクスピア風喜劇です。舞台上で、劇団ドガドガプラスの特徴である華やかなダンスシーンや華やかで凝った衣装もふんだんに披露される



東京キネマ倶楽部

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



ティスト)、タノタイガ(美術作家)、K.TETSURO+M.D>BINJI(アーティストユニット)、武田陽介(写真家)たちが独自の視点で台東区のまちを映し出した作品を発表。後半は、成瀬つばさ(iPhoneアプリ「リズムシ」作者)、林家彦いち(落語家)、蓮沼執太(音楽家)による、リズムに合わせた映像や、映像を流しながらその場で断を披露するなど、ユニークな発表を披露。第3部は「みつける写真道場の神髄ここにあり!技炸裂!音師も炸裂!」。ライブ演奏とともに、師範と師範代の修行の成果となる新作上映を披露しました。

#### 企画者からのコメント

台東区の支援があったからこそ、活動の弾みが出ました。進捗状況相談や場所や様々なアドバイスがよかったです。企画を終えて、やりたいことのクオリティの上げ方や問題点がはっきりと出てきました。その後、ワークショップも厚みを持たせて、公共的な場所や愛知トリエンナーレ、東京都現代美術館などでも行いました。フェスではなく、展覧会として横浜で展開し、現在1年間をみつけるためのワークショップを世田谷生活工房で行っております。



ゲストポスター

台東区2012』の会場は、昭和の香りが漂うまち浅草の一角にあるお笑いの殿堂、東洋館。第1部は「各エリア道場代表生の新作!」ということで、これまでに谷中・下谷神社・浅草で開催された道場の代表者による新作発表です。それぞれの発表後に、撮影の意図や感想などを交えての総評も行いました。また、映像に合わせてその場でギターによる生演奏をつけるという演出も行いました。第2部は「下町・台東区の新たなみつける視点たち」。様々なジャンルのゲストアーティストによる新作発表と、ディスカッションを実施しました。前半は、ヴィヴィアン佐藤(非建築家・アー



みつけるフェスin台東区2012の様子

## 映像あり、音楽あり、トークありの映画祭!

「30秒に一回みつける写真道場」は、2011年1月師範の北川貴好(現代美術作家)が、朝から夜まで1日1000枚を目標にデジタルカメラで写真を撮り、それを1コマ0.2秒の高速のライドショーにして約4分の映像を遊びで作ったことが始まりです。削除せずNO編集で全部見せる、というルールで撮影された映像には、その日何をどういう風に見て関心を持ったことが凝縮されており、これを誰かみんなとやってみたいと思い、スタートしました。『みつけるフェスin台東区2012』は、台東区内各地で複数回開催したワークショップの集大成として、下町・台東区を舞台に映像と音楽と街とがコラボレーションした日本で初めてのフェスティバルです。これまでの道場の優秀者の新作発表、アーティスト・写真家・落語家など様々なジャンルの異色の

ゲストによる台東区をテーマにした作品発表、師範と師範代によるスペシャルプログラムの三部で構成されています。

#### 開催状況

「みつけるフェスin台東区2012 予選道場」は、いろいろなまちに出かけて、30秒に1回デジタルカメラのシャッターを切ります。1日で約1,000枚の写真を撮り、編集後、発表するワークショップを開催。優秀作品は、ワークショップの集大成となるイベント「30秒に一回みつけるフェスin台東区2012」に出場できるという予選会も兼ねます。●みつける花火大会プレ道場!(LwpAsakusa/浅草) ●みつける谷中道場!(旧平櫛田中邸/谷中) ●みつける下谷神社道場!(下谷神社/稲荷町・御徒町) ●みつける浅草道場!(浅草文化観光センター/浅草) 『みつけるフェスin



Title  
みつけるフェスin台東区  
2012

主催者  
30秒に一回みつける写真  
道場!!

開催期間  
2012.07.28—12.15

会場  
東洋館、LwP asakusa、旧  
平櫛田中邸、下谷神社、浅草  
文化観光センター



東洋館



下谷神社道場



みつけるフェスin台東区2012の様子



チラシ

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



Title

吉原芸術大サービス

## 吉原を舞台にした現代アートと伝統芸能のお祭り!

主催者  
吉原芸術大サービス実行委員会

開催期間【平成24年度】  
2013.03.03—10

開催期間【平成28年度】  
2016.10.29—30

会場  
吉原神社、吉原弁財天、吉原会館、台東区立花園公園  
他 千束3・4丁目界隈

『吉原芸術大サービス』とは、台東区千束(吉原地区)で開催されている芸術フェスティバルで、2013年以降これまでに計4回開催しています。(うち、第1回と第4回は支援制度採択企画)。舞台である吉原は、江戸時代幕府に認められた遊郭として日本中に知られていた場所です。さまざまな変遷を経た今では、ソーブランドが立ち並ぶ町として知られています。本企画の始まりは、若手芸術家4名(阿部圭佑・小山一平・橋本匠・村上慧)が2011年の夏、浅草に住居兼協同アトリエ「空鼠」を設立したことがきっかけです。荒れ果てた吉原弁財天を蘇らせるために、1人で改修を始めたまちのおじいさん(揚屋町会長の吉原さん)が、近くに住む若い芸術家たちに要望を出し、それを受けた芸術家たちが壁画を奉納したことから始まりました。彼らはまち

の要望に技芸で応え、まちは彼らに発表の場を与えました。お金のやり取りではなく、互いが持っているものやできることを与え合うラリーが『吉原芸術大サービス』へと発展しました。

## 【開催状況】

2012年度、初開催となった『吉原芸術大サービス 線の上で踊る』では、総勢20組による絵画・写真・映像・インスタレーションといった現代美術作品が展示されました。そのほか、ダンス・花魁ファッションショーなどのパフォーマンスや、三味線・新内節・神楽といった伝統芸能のライブを、吉原神社や吉原弁財天を中心とした千束3丁目・4丁目のさまざまな場所で披露しました。参加アーティストは以下の通りです。  
●阿部圭佑(映像) ●アンサンブルMOMO(音楽アンサンブル) ●井口

雄介(オブジェ) ●遠藤一郎(パフォーマンス) ●太田屋元九郎(津軽三味線漫談家) ●岡本紋弥+杉浦千弥(新内・三味線) ●加茂昂(絵画) ●狐神楽(狐舞) ●小山一平(写真) ●高田冬彦(映像) ●津田翔平(インスタレーション) ●橋本匠(パフォーマンス) ●服部紫野(壁画) ●林友深(絵画) ●東山佳永(ダンス) ●fifi(ファッションショー) ●村上慧(仮設カフェ) ●吉野もも(絵画) ●山川冬樹(ホーメイ歌唱)。2016年度に4回目を迎えた『吉原芸術大サービス2016』では、総勢17組のアーティストたちによる作品・パフォーマンスが披露されました。全国各地で活動している「きむらとしろうじんじんの野点」を加えるなど、回を重ねるごとに新しいプログラムやアーティストを追加しながら変化を遂げています。参加アーティストは、以下の通りです。  
●大井健司(パフォーマンス) ●オートモイ(イラスト) ●岸井大輔(演劇) ●きむらとしろうじんじん(陶芸屋台)

●熊倉涼子(絵画) ●山山山(演劇) ●田上碧(歌) ●茶番組合(パフォーマンス茶会) ●津田翔平(ミクストメディア) ●舞踊ユニット「てんつく」(日本舞踊) ●濱田明孝(パフォーマンスアート) ●林友深(絵画) ●マーレードボーイ(インスタレーション) ●宮澤やすみ(小唄) ●村上慧(インスタレーション) ●渡辺俊介(インスタレーション)。



28年度イベントの様子

## 企画者からのコメント

支援制度を受けたことが、会場交渉や取材活動などでの信用度の向上に繋がり、スムーズな運営ができました。また金銭面の支援だけでなく、区内への広報活動にも協力していただいたのは、運営にとってプラスとなりました。参加メンバーはこの企画での経験を活かし、様々なフィールドで活躍をしています。



24年度イベントの様子



24年度イベントの様子



28年度チラシ